

公認会計士はバラエティに富んだ 多くのチャンスが待っている資格です

2006から2008年まで公認会計士試験の試験委員（租税法）を務められた

村田守弘会計事務所・村田守弘先生。外資系税理士事務所や大手税理士法人の代表を経て、現在は独立して国際税務分野を中心に活躍されている。

その村田先生に、合格するための租税法の勉強方法と公認会計士の将来性についてお話を伺った。

合格点を目指す 勉強をしよう

●租税法を極める必要はない

公認会計士を目指す皆さんにとって、今一番大切なのは「合格」することです。決して試験で満点を取ることはありません。仮に租税法の学習項目が1から10までであるとした場合、それを1から10と順番通り最後まで勉強するやり方は、租税法を得意にすることはできるかもしれませんが、公認会計士試験の合格には向いていない方法です。公認会計士試験は科目数が多いこともあり、広く浅くバランス良く勉強できていないと太刀打ちできません。たとえ租税法を極めていてもそれが合格に直結するわけではないのです。極めるのではなく、合格点を少し超えるところを目指して勉強しましょう。これは、他の科目にも言えることではな

いでしようか。

●租税法の学習法

私が良いと思う租税法の学習方法は、大原さんのような専門学校を活用すること、あちこちに手を付けずにテキストや参考書を数冊に絞って勉強することです。

大原さんがどのような学習指導をしているのかを具体的に知っているわけではないのですが、多くの合格者を輩出している実績のある専門学校では当然に合格に必要なポイントを押さえた授業を展開しているはず。すると皆さんは授業を聞くことで「わかった気」にさせてもらえます。そのノリの中で勉強を進めて行けるのはとても重要なことです。本当の意味で「わかる」まで勉強していると先に進めず合格までに何年もかかってしまうでしょう。

テキストや参考書にしても、学術書のようにあまり詳しく書き過ぎたものはや

めて、試験用にコンパクトにまとめたものを利用しましょう。世の中には著名な先生が書かれた租税法のバイブルとも言われる素晴らしい本があります。しかし、実務の世界でバイブルとまで言われているレベルの本は、受験生である皆さんには不向きです。まずは合格すればいいと割り切りましょう。

計算問題の勉強方法の基本は、過去問や専門学校の答練を繰り返し解くことだと思えます。最初は90分近くかけても解けなかった問題でも、3回くらいやると50分で解けるようになるものです。同じ問題を解いているので早くなるのは、当たり前なことと思われるかもしれませんが、実際に問題を解いて、そのスピード感を味わうのはとても自信につながります。総合問題にしてもその実態は個別問題の寄せ集めです。ですから、わからないところがあってもあまり気にしないで、わかるところだけで良いと思えます。

●理論問題の勉強方法は、まずは専門学

校のテキストや自分で決めた基本書をベースにして読み込み、気になる箇所に関連条文を見たりして重要と思えるところにマーカーを引いたり、授業で聞いたところや自分の思うことなどを手書きで加えたりしてとにかく通読してください。後は電車の中などの空き時間に見直ししていれば大丈夫ではないかと思えます。

学習の基本書を絞り込むと不安になるかもしれませんが、最初に申しました通り税法を深く理解することが目的ではありません。公認会計士試験の租税法は、出題範囲の要旨にも書かれているように、実務に向けての入口となる構造的理

村田守弘氏

公認会計士・税理士

1969年、慶應義塾大学経済学部卒業。1970年、アーサーヤング東京事務所（現アーンストアンドヤング）入所。1979年～1986年、アーサーヤングNewYork事務所に駐在。1998年、アーサーアンダーセン税務事務所に入所、翌年代表に就任。2002年、朝日KPMG税理士法人設立、同代表に就任。2004年、KPMG税理士法人設立、同代表社員に就任。2006年、KPMG税理士法人退職、同年村田守弘会計事務所を開設、現在に至る。2006～2008年、公認会計士試験試験委員（租税法）。2008年、青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科客員教授。

解を問う基礎的な出題がなされるので、深く考え過ぎず、わかったつもりになって、そのノリを活かして合格点を少し超えるところを目指しましょう。

公認会計士の可能性

●年収1億円も可能

公認会計士という資格は、非常にバラエティに富んだ、あらゆる可能性を秘めた資格です。昨今、監査法人への就職難の報道などを見て不安に思っている方がいらっしやるかもしれません。しかし、公認会計士試験に合格できるだけの能力

がある人は、計数感覚も論理思考も備え、非常にバランスの取れている優秀な人材です。試験科目やその学習内容を見ればわかる通り、ビジネスの基本を学んでいるので、監査法人以外にも多くの仕事やチャンスに恵まれているのです。

その中の一つにコンサルタントがあります。コンサルティングには様々な手法がありますが、いずれにしても財務諸表が読めないといけないのです。その他にも投資銀行なども活躍の舞台があります。今、私が一番期待しているのは大企業の財務部門です。現在のところ財務部門こそあるものの、専門性をもった人員をある程度そろえた財務部門は、まだ大企業でも多くありません。しかし、これからは企業内公認会計士、企業内税理士として、社内に専門家を迎えようとする企業が一般的になるのではないかと思います。

そこで一つ問題になるのが給与面です。若い人の話になりますが、監査法人に

就職すると新人の年俸はだいたい500万円強。日本で新人にいきなり500万円も出す一般企業はそうそうないですよ。そこで受験生のみならず考えて欲しいのですが、このスタート時の給与の差はそんなに大きな問題でしょうか？確かにお金は大事ですけれども、決して働けども十分な給与がもらえないワーキングプアというわけではないのです。目先にとらわれず、やりがいなどを重視して臨んでもいいのではないかと思います。

その中で、自分の生きがいなどを見つければ、それはとても幸せなことですよ。あまり隣の人を気にしないほうがいいのではないかと私は思います。それでもお金欲しいというのであれば、一般企業でもなく、監査法人でもなく投資銀行に勤めたほうがいいでしょう。これは私の持論なのですが、公認会計士の能力がある人ならば年収1億円は可能。しかし、それを求めるならば監査法人においては、最終的に無理なのです。

公認会計士はビジネス全般に適應した資格です。世の中は経済で動いているわけですから、今の段階では想像できないほどの新しいビジネスチャンスがまだまだ控えているのではないかと思います。

● 租税法の重要性

公認会計士が監査法人以外でも活躍できる数ある舞台の中で、一番近いのは税務業務に入っていくことではないでしょうか。公認会計士が独立すると、現実的には監査業務ではなく税務業務が主になります。そうなるとうる税法の知識は、これからの飯の種として非常に重要になって

行きます。税法を知らない、たとえ独立開業しても専門家として食べてはいけません。

また、監査法人で頑張っている人としても、税法を知ることが重要です。監査意見形成上、大きな問題となるのが繰延税金資産の取扱いです。繰延税金資産の取扱い、つまり税効果会計は、突き詰めれば税金ではなく会計の話になります。が、それでもこの分野では税法がわかっていないと大きな不利をもたらします。

私たちがこの業界に入った時代は、租税法を学ぶことなく監査を経験してしましました。私自身、監査の経験がかなり積んでから税務の世界に入りました。会計と税務では視点が大きく違うので、どうしても2〜3年は違和感を拭きませんでした。その点、皆さんは最初から租税法を学んでいますので、試験勉強が実務に直結するとは言いませんが、基礎がわかっていて分、すんなり税務に入りやすいのではないかと思います。

● これからの公認会計士に求められる能力

これからは公認会計士としての能力の他に語学力が求められるでしょう。他に語学力が求められるでしょう。英語が中国語あたりでしょうが、日本語以外の経済大国の語学力が大事になります。

私自身にしてもKPMG税理士法人を早期退職後、一人でやっていけるのは税法と英語がわかっているから。英語はできるが他の専門能力がない、逆に専門能力はあるが語学力がない、という人が案外多いですよ。皆さんは公認会計士としての専門能力を身に

付けようとしている段階ですが、その後は、語学力も身に付けて貴重な人材になってください。

専門性を高めるためには、国内だけでなく海外の情報も必要になります。そのときに自分自身で情報を咀嚼できるだけの語学力がないと、その情報は使い物になりません。そういった意味では、まずは読む力を鍛えることです。それから、ペラペラに話せるようになることを目指すよりも、聴く力を鍛えましょう。話すのは自分から伝えるわけですから、少々たどたどしくても構いません。しかし、聞く側になると相手はこちらの語学力にあわせて話してくれるわけではないのです。聴く力を鍛えるために、まずは電車の中で英語を聞き取り、英語の音楽を聞き取りすることから始めてみるのもいい

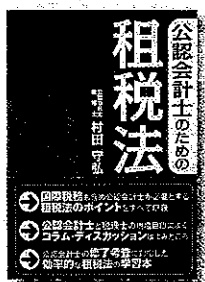
と思いますね。

● 公認会計士を目指す人へのメッセージ

監査法人の業務は決して右肩下がりではありません。近年あった内部統制などのブームが一段落しただけです。これからも安定的に伸びて行く業界です。また、公認会計士の資格を持つほどの能力がある人であれば、監査法人という舞台以外にも大きなチャンスが待っています。それは自分の頑張りが次第です。

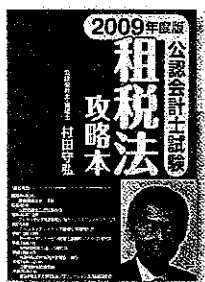
最後に一言。真剣に勉強に打ち込んで公認会計士試験に合格した場合、合格したという事実が、皆さんにとって大きな自信になります。そうならば、これからの人生が楽しくなるはずですよ。自分の将来を信じてチャレンジしてください。

著書紹介



公認会計士のための租税法

村田守弘著 千倉書房刊
2,940円(税込)
国際税務も含め公認会計士が必要とする租税法のポイントをすべて網羅。公認会計士の修了審査にも対応した効率的な租税法の学習本。



2009年版 公認会計士試験租税法攻略本

村田守弘著 千倉書房刊
2,520円(税込)
公認会計士試験合格のための租税法攻略本。随所に関連条文が記され、必要項目がコンパクトにまとめられた参考書。

その他の主な著書
『移転価格戦略ケース・スタディ』(中央経済社)、
『弁護士のための租税法』(共著、千倉書房)。